

氏名	岡部 一光
授与した学位	博士
専攻分野の名称	保健福祉学
学位授与番号	博甲第95号
学位授与の日付	平成26年3月24日
学位論文の題目	介護労働者の職務及び職場継続に関する基礎研究
学位審査委員会	主査 中嶋和夫 副査 村社 卓 副査 山口三重子

学位論文内容の要旨

本学位論文は、介護労働者の離職予防や質の高い介護労働者の確保に資する基礎資料を得ることをねらいとして、コミットメントの先行要因（職員の属性、介護職に就いた動機、介護技術）を考慮した上で、介護労働に関連したコミットメントおよびストレスが介護職務と職場継続意思に与える影響を実証的に検討することを目的とした。

本学位論文における演繹仮説は、文献研究を基礎に、Lazarusらのストレス認知理論（下位にコミットメント理論を含む）とBeckerのサイドベット理論（コミットメントの先行要因に関する理論）を統合し、職場と職務に関連した継続意思に関する因果関係モデルとして構成した。具体的には、介護労働者の職場と職務に関連したコミットメント（ストレス認知の先行要因）が彼らの職場と職務に関連したストレス（認知的評価）を通して、直接的にまたは間接的に彼らの職場と職務の継続意思に影響を及ぼすとし、さらにその因果関係モデルに、Becker（1960）のサイドベット理論に基づいた職員の社会人口学的要因（性別、年齢、学歴、保有資格、介護職の経験年数、現在の職場の勤務年数、勤務形態）と心理行動学的要因（介護職に就いた動機と介護技術）を配置した。

ストレス認知理論とサイドベット理論を統合した前記因果関係モデル（演繹仮説）を実証的に検討するために、調査を実施した。調査にはA県の介護老人福祉施設15ヵ所で働く専門介護職員404人が参加した。調査内容は社会人口学的要因（性別、年齢、学歴、保有資格、介護職の経験年数、現在の職場の勤務年数、勤務形態）、心理行動学的要因（介護職に就いた動機と介護技術）、介護に関連した職務と職場に関するコミットメント、ストレス認知、および継続意思で構成した。

統計解析では、前記因果関係モデルの実証的な検討に先立ち、各測定尺度の構成概念妥当性と信頼性を検討した。具体的には、介護技術は10因子二次因子

モデル、介護職務コミットメント、介護職場コミットメント、介護職務ストレス、および介護職場ストレスはそれぞれ 3 因子二次因子モデルを仮定し、構造方程式モデリングによる確認的因子分析でデータへの適合性を検討した。また信頼性については、内的整合性に着目し、クロンバックの α 信頼性係数により検討した。次いで、前記因果関係モデルのデータに対する適合性と変数間の関連性を、構造方程式モデリングにより検討した。上記の因子構造モデルおよび因果関係モデルのデータに対する適合性の判定には、CFI ならびに RMSEA を採用し判断した。因果関係モデルの標準化係数（パス係数）の有意性は、非標準化係数を標準誤差で除した値（以下、t 値）の絶対値が 1.96 以上（5%有意水準）を示したものを統計学的に有意とした。また測定尺度の構成概念妥当性の検討においてはパラメータの推定は最尤法としたが、職務や職場の介護継続意思を従属変数とした因果関係モデルにおいてはそのふたつの変数が 3 件法で連続変数とみなすことが難しいことから、重みづけ最小二乗法（WLSMV）でパラメータの推定を行った。本研究の分析には、SPSS12.0J ならびに Amos5.0 および Mplus2.14 を使用した。回収された調査票は 404 人分（回収率 66.2%）であったが、集計対象は、調査対象 610 人のうちの分析項目に欠損値のない 242 人（有効回答率 39.7%）とした。

統計解析の結果、介護技術は 10 因子二次因子モデル、および介護職務コミットメント、介護職場コミットメント、介護職務ストレス、および介護職場ストレスの 3 因子二次因子モデルはデータに適合し、構成概念妥当性が統計学的に支持された。また本研究では前記因果関係モデルもデータに適合し（ $\chi^2=320.740$ 、 $df=128$ 、 $CFI=0.962$ 、 $RMSEA=0.079$ ）、職務ならびに職場コミットメントがそれぞれに対応したストレスを軽減すると共に介護の継続意志を高め、同時に職務ならびに職場コミットメントに関連するサイドベット理論を構成する変数が関係していることを明らかにした。この結果は、コミットメント理論を内包したストレス認知理論とサイドベット理論が支持されたことを意味している。

以上の結果から、介護労働者の職務の継続を維持・向上させるには介護職務コミットメントを、また介護職場での勤務を継続させるには介護職場コミットメントを向上させることの必要性が示唆された。加えて、それらコミットメントに対し就労働機が共通して関連していたことから、それらを採用時に注目することで介護労働者としてより適切な人材が確保できる可能性が示唆された。

主業績

No.1	
論文題目	介護労働者のコミットメントとストレスが職務・職場継続意思に及ぼす影響
著者名	岡部一光 原野かおり 中島 望 張 英恩 桐野匡史 中嶋和夫
発表誌名	日本経営介護学会誌, 7(1), 36-46, 2012-11

副業績

No.1	
論文題目	The Relationship between Caregiving Commitment and the Will to Continue Caregiving for Family Caregiver of Frail Elderly at Home
著者名	Young-Enn Chang Yoshinori Koyama Kazumitu Okabe Kazuo Nakajima
発表誌名	日本保健科学学会誌 15(3), 152-162, 2012-12-25

関連業績

No.1	
論文題目	在宅家族介護者の介護関連デイリー・ハッスルと介護放任傾向との関係
著者名	桐野 匡史 中島 望 松本 啓子 李 志嬉 岡部 一光 中嶋 和夫
発表誌名	日本保健科学学会誌 15(2), 71-80, 2012-09-25

論文審査結果の要旨

本学位論文は、介護労働者の離職予防や質の高い介護労働者の確保に資する基礎資料を得ることをねらいとして、コミットメントの先行要因（職員の属性、介護職に就いた動機、介護技術）を考慮した上で、介護労働に関連したコミットメントおよびストレスが介護職務と職場継続意思に与える影響を実証的に検討することを目的としている。

研究結果は、介護のコミットメントが介護のストレスを軽減すると共に介護の継続意思を高めることを明らかにし、かつ、介護労働者の職務と職場に関する因果関係モデル（演繹仮説）がデータに適合することを明らかにしている。

以上の結果は、コミットメント理論を内包したストレス認知理論ならびにサイドベット理論が支持されたことを意味すると同時に、臨床的には、介護労働者の職務の継続を維持・向上させるには介護職務コミットメントを、また介護職場での勤務を継続させるには介護職場コミットメントを向上させることの必要性を示唆している。加えて、それらコミットメントに対してその先行要因としての動機が関与していたことから、それらを採用時に注目することで介護労働者としてより適切な人材が確保できる可能性を示唆している。

以上の結果より、学術上、實際上寄与するところが少なくない。よって、本論文は博士（保健福祉学の学位論文として価値あるものと認める）。